

北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

# 北鎌倉だより

会報

2017年9月 NO.36



＜浚渫が終わり、水位が下がった谷戸の池＞

## 「谷戸の池」の浚渫が完了しました

### 目次

■ 台峯整備工事の現状と新たな課題	2	■ 台峯の周辺⑭『かまくら子ども風土記』	8
■ 8月19日(土) 山の手入れ作業報告	4	■ 活動記録・総会報告など	9
■ 鳥の名前よもやま噺 ①名前というもの	6	■ カレンダー・集いご案内	10

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

## 台峯整備工事の現状と新たな課題

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

### 「谷戸の池」の浚渫工事終了と今後の予定

6月末に、池のへドロを浚渫する工事が予定より3ヶ月ほど遅れましたが、完了しました。(表紙写真)

工事中は生物に配慮しながら丁寧に工事を進め、基金の会員他、市民の協力もあり、貴重な生物を保護することも出来ました。水を抜いたことで、昔の排水溝なども現れました。現在、堤防の工事を控え水位を下げた状態ですが、エビモなど水生植物が復活しギンヤンマなどトンボが産卵に集まっています。

11月頃から従来の話合いに沿った形で堤防の工事が始まる予定です。

### 集積されたへドロの問題

池から出たへドロが予想以上に多かったこともあり、集積したへドロが崩れる危険性が心配されています。

そのため、へドロを固める資材を混入し安全性を高めています。へドロに混入する資材は、自然への影響を極力抑えるため、従来のセメント系ではなくパルプ系の素材を使用し、現場での検証を重ねながら慎重に使用する予定です。

また、へドロを集積したままにせず、散策路整備などに利用する見通しになりました。

### 散策路整備の課題

これまで、谷戸の池～グランド下排水溝の間(副道線の位置づけ)の工事用仮設路は、工事終了後撤去され元に戻されるとお伝えしてきました。

しかし、8月末に鎌倉市公園課より新たな提案がありました。財政難と「谷戸の池」から

出たへドロ処理の関係で、工事用仮設路に土(前述、凝固させたへドロを使用)をかぶせて改良して、開園後も散策路として活用したいとのことです。

これに対し、当基金から、「谷戸の池」周辺は自然環境を最優先に配慮するという基本計画の位置づけを遵守してほしい、散策路整備にあたっては、グランド下排水溝～山崎小学校側入り口(主道線の位置づけ)とは違いがわかる形にしてほしいと申し入れました。

今後、下記のような基金と公園課の立場をふまえながら、具体案を検討していくこととなります。

○当期金の立場としては、

1. 湿地の保全: 湿地側に水が滲み出している現況を保全。湧水口と流路の確保。
2. 谷戸らしい景観の確保: 木道など以前は無かった人工物が目立たないことが好ましい。舗装したり、現状の仮設路のように碎石がむき出しては困る。
3. 撤去が中止となった谷戸の池～グランド下排水溝の間の仮設路: 土をかぶせるだけでなく、幅を狭くするなど、基本計画に準じた景観や自然への配慮が必要。

○一方、公園課としては

1. 来園者の安全性: 平坦で路肩の補強された散策路が望ましい。路肩の補強にはプラスチック製の擬木を使いたい。
2. へドロを域内で活用したい: へドロを搬出する費用は無いので、集積されたへドロを仮設路にかぶせて碎石を覆い、土の散策路とする。
3. へドロ集積場を広場に: へドロを利用することで集積場が空き、広場にできる見込みが出来た。これは池の安全性にもつながる(後述)。

4. 経費の節減: 仮設路を撤去する費用を節減できれば、危険木の伐採など以前から基金が要望してきた保全作業に充当できる。

開になってきました。

当基金は、大きな流れの転換の中で、今後も行政との交渉にきめ細かい対応を図っていきたいと考えております。

久保 廣晃

### 財政難による基本計画の一部変更

鎌倉市の財政難により、緑保全への風当たりが強くなっているそうです。

今後も緑地の買い入れが難航しそうな中、台峯緑地の基本計画で予定されていた里山的な整備が出来なくなりました。田んぼの復活、畑跡地の原っぱとしての活用、一部の樹木の伐採などが中止になりました。ただし、位置づけは残るので、今後ボランティアが田んぼの復元作業をすることは可能なようです。

最低限必要な、管理棟や新しい散策路(尾根と谷戸をつなぐ道など)の整備も見通しが危ぶまれているようです。

### 「谷戸の池」周辺の整備の一部変更

開園後、最も憂慮されるのが「谷戸の池」の安全対策です。池が深いことや管理棟から離れていることが懸念されます。

基本計画では、池のほとりを従来通り散策路が通ることになっていましたが、現在ヘドロが集積してある「畑跡地」を広場にして、新たに散策路を通すことになりました。来園者は池に接近はできず、広場を通して谷戸の池を見下ろす形になる見込みです。また池周辺の転落防止柵も必要になるでしょう。

### 今後に向けて

財政難により里山的な整備が難しくなってきたこと、池のヘドロを利用して仮設路を土で覆い散策路にする提案、谷戸の池周辺の安全対策など、当初の予想とは違う展



<浚渫されたヘドロの集積場>



<水位が下がり昔の排水溝が見えてきた>



<残ることになった仮設路、幅を狭くし土を被せる>



.....  
2017年8月19日(土)

山の手入れ作業報告

.....  
今年は8月に入って天候不順で雨の日が続いていて、山の手入れがある数日前の週間天気予報では降水確率50%を超えていたので、実施できるか心配でした。当日は不安定そうな雲行きでしたが、お陰様で作業時間中はお天気が持って何よりでした。

まだ谷戸の中が工事で入れないため、今回もかつて畑だった場所の整備を行いました。夏場は作業にかかる負担を考慮して作業時間を短縮して、いつもより30分短く1時間で切り上げているのですが、今回も三浦マウンテンバイク・プロジェクトの皆さんが大勢参加してくださって、作業は大幅にはかどりました。ク

ク セイタカアワダチソウやカナムグラの除去を実施しましたが、随分ときれいになりました。



<集合後、現場に向かう前に  
物置小屋から作業器具を取り出します>

作業を終了した11時の段階では入道雲が少しずつ湧いてきた程度でしたが、私が都内の自宅に帰った頃には辺りが黒雲に覆われて夕方5時くらいからは激しい雹が降りましたので、今回無事に作業を実施することが出来て何よりでした。



<炎天下の中での作業風景>





<作業は結構はかどりました>



<次第に整備されていきます>



<作業を終えて。集合写真>



<北鎌倉駅前 ハギが咲き始めました>

北鎌倉の駅前の水路脇にハギが花をつけ始めましたので、秋も少しずつ近づいている感じがしました。

小谷 一夫

鳥の名前よもやま噺

第一話 名前というもの

自然観察にかぎらず山野を歩くと、誰しも目にする動物や植物の名前を知りたくなります。それは今まで気づかなかった多くのモノにあなたの関心が向いたからです。さらにその名前を覚えると愛着が生まれ、万物に愛を感じる豊かな感性が育って参ります。最寄りの駅に知人を出迎える時、大勢の人が電車から降りてきます。その中に目指す知人が現れなくとも、たまたま、名前を知っている人がいると、他の大勢よりその人に親しみを覚えます。更にその人も自分を知っていて下さると思われるなら、挨拶の一つも交わすでしょう。自分のペットに名前を付けない人はおりません。昔の話で恐縮ですが、ハリウッド全盛時代、「ティファニーで朝食を」という映画をご存知でしょうか？その中でニューヨークに出てきて「はちゃめちや」な生活をして



ているヘップバーンがマンションで猫を飼っています。その猫には名前がありません。彼女は猫という普通名詞、キヤットと呼んで、猫と飼い主との間の愛情に、一線を引いています。最後に猫はゴミ捨て場に捨てられてしまうのですが、本当の愛を悟った彼女は再び猫を探しに戻ります。雨の中、猫をキヤット、キヤットと呼んで必死に探すのですが、この時のキヤットは普通名詞ではなく、実質は猫と彼女を結ぶ固有名詞になっています。猫の呼び方を使って、この映

画の主題、「真実の愛」と云うものを表現しています。動物ばかりでなく植物でも、特別に注目を集められた個体には固有名詞がつけられのは、御承知の通りです。



自然観察で名前を知ろうと皆さんが手にする図鑑の中の名前は全部カタカナで書かれています。これはその名前が標準和名であるからです。標準和名とはその生物の学名と正確に対応する日本語の名前で、文部科学省が各分野の専門学者に依頼して決定したものです。学名とは簡単に言えば、生物に与えられた国際的に共通の名前のことです。一種類の生物に対し、ただ一つの有効な名前があるのを原則としています。学名が作られた18世紀中ごろ、当時の国際共通用語であったラテン語で名前がつけられています。近年になり、動植物の保護等を目的とする多くの国際条約が交わされるようになりました。日本語は欧米の言葉と全くかけ離れた言語ですので、国際条約の中で使われている学名を、そのままの形で、条約に基づく日本の法律に書き込めません。そこで学名と正確に対応する標準和名が必要になりました。法律、法令、通達などの公文書はじめ日本語の学術論文など、公式の場合には必ず標準和名を使う事とされ、標準和名は必ずカタカナで表記すると決められています。そんなことから、私たちの使う図鑑の名前は全てカタカナの標準和名が使われて、最近ではすっかり定着しました。標準和名以外の名前は全て俗称として取り扱われています。標準和名が普及したのは



良いことでしたが、その副作用として、使われなくなった多くの俗称が次第に消え始めています。数ある俗称の中には日本各地の古い民話や伝説などを由来する捨てがたい名前も沢山あるので残念です。



ここまでの話を皆さんもよく知っている身近な鳥「とんび」の名前を例に説明します。「とんび」という名前は俗称で、標準和名は「トビ」と決まっています。文章で書くとき、平仮名で「とび」と書いても、漢字で鷹と書いても、それらは俗称になります。トビとは学名で

Milvus migrans と決められている鳥と同じ鳥の日本語名です。ラテン語の Milvus migrans の意味を日本語に翻訳したものでもありません。トビの俗称には「とんび」の他に私の調べただけでも 23 もあります。恐らくもっとあるでしょう。英語でトビは Black Kite とか Black-eared Kite と呼ばれ、中国では英名の翻訳らしい黒鷹と云われます。これらは全て俗称です。しかし最近では英語が国際共通用語になっているので、学名より英名が出てくるようになりました。すこし詳しい図鑑には標準和名の横に学名と英名が記載されています。

久保 順三

<図鑑の例 学名と英名が表記されている

本山賢司 『鳥類図鑑』より>

学名 / *Milvus migrans*  
 Milvus はラテン語で「トビ」  
 migrans はラテン語で「さまよう」の意味  
 英名 / Black Kite



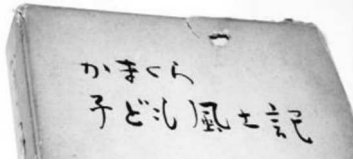
**トビ**  
鷹 / タカ目タカ科

学名 / *Milvus migrans*  
 Milvus はラテン語で「トビ」  
 migrans はラテン語で「さまよう」の意味  
 英名 / Black Kite

- 分布 / 留鳥として国内でごく普通にみられるタカ類。小笠原諸島や南西諸島ではまれな冬鳥。
- 海岸から港、農耕地、高山まで広く生息。
- 全長オス約59cm、メス約69cm。雌雄同色。
- ・ 全体に「茶褐色」●。
- ・ 目は「茶色」●で、目尻の部分がやや黒っぽい。
- ・ くちばしは「黒」●く、基部から目先にかけて「白ねずみ色」○。
- ・ 翼の下面の初列風切の付け根が「白」○く、よく目立つ。
- 鳴き声 / よく知られている鳴き声、「ビーヒョロロ」。
- カエル、トカゲなどの小動物も捕食するが、基本的にスカベンジャー（腐肉食者）で、魚の死体なども好み、飛びながら器用に食べる。
- 繁殖期は3月下旬から5月の初めごろ。この時期になるとつがいで行動するようになる。
- ・ アカマツやイチヨウなどの高木に、直径60~80cmの巣を作る。
- ・ 「明るい灰色」○に「褐色」●の斑のある卵を2~3個産む。



台峯の周辺⑭



鎌倉を紹介する本は巷に溢れているが、1冊だけ挙げるなら『かまくら子ども風土記』だろう。市により、1957年の刊行開始以来60年、郷土を学ぶ教材として小学生に配布されている。(一般向けにも販売中)

私が小学校で貰ったのは、発刊から数年を経た改訂三版(1962年、写真上、部分)である。これにより初版を補いつつ、現在の状況と比較してみよう。半世紀余りの間に、一体どんな変化があっただろう。

同書は、まず「鎌倉」の名の由来や歴史を概観した後、「大町」、「小町」といった町毎に地理や史跡を見ていく。しかし、台峯絡みでは、山崎など旧深澤村の字は全て「深沢」に纏められてしまっている、市外の「江ノ島」はあるのに。また「台」においては、交通の要衝で高札場が2つあった、とあり、寺社として小八幡と脇の観音堂、光照寺等に触れている。歴史の記述が多く、その後も変化は少ないが、観音堂は現存しない。

こうした町々の説明が続いた後、最後の「鎌倉の自然と風俗習慣」篇では鳩サブレ、貝細工、正宗(刀鍛冶)などの名産を、動植物、ハイキングコース、祭り等とともに紹介。食事処こそ載っていないが、観光にも立派に役立ったことだろう。

それはともかく、細工するほどの貝は今も採れるのだろうか。作刀だけでなく、私の家の窓枠など鉄工もしてくれた正宗 23 代山村綱広の直

次氏は甥に跡目を譲った後の1983年、海外航空機事故で愛妻とも亡くなられてしまった。

また、動物については、初版で宅間ヶ谷「こうもりやぐら」に棲むコウモリが取り上げられていたが、早くも改訂版には記述がなく、現在はやぐら自体が存在しないようだ。

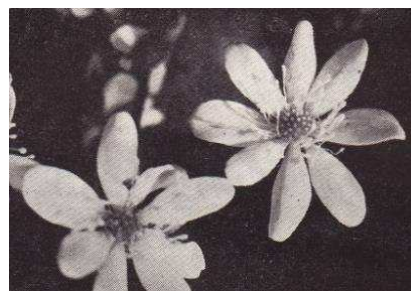
植物も、初版の報国寺クマガイソウが改訂版では消え、現在の同寺HPにもない。

また天園の「尾根の北側に多」いスハマソウはユキワリソウの名で改訂版に残り、70年代も「白砂をしいたよう」(御所見直好だれも知らない鎌倉路)だったのに、80年頃の「激滅」(内田大『かまくら風蝶草』)や「今や昔の話」(永井路子ほか『鎌倉歴史散策』)を経て、現在『鎌倉の自然』(市発行。『～風土記』から自然の章が分かれたもの、らしい)では全く触れられない。偶々手許の2007年2月横浜植物会報に鎌倉での論考があるが、観察時点は不明。私自身実際に観たことはないが、絶滅したのだろうか。

そんな中、改訂版に源氏の家紋で市章の笹竜胆が初登場、これに繋がるフデリンドウを最近台峯で発見できたのは嬉しかったが、数日後には消えた。盗まれたらしい。

たった半世紀ほどでこの変化である。将来鎌倉には何が残っていくのだろうか。これから半世紀後の記述が寺社の跡と帰化生物だけ、などとはならぬようしたいものである。

本田 隆史



<「かれんな」ユキワリソウ> (改訂三版)



<台峯のフデリンドウ>



## 活動記録

(2017年4月～2017年9月9日)

## 会計報告

(2016年4月1日より2017年3月31日まで)

特定非営利活動法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

(単位:円)

### 1 市公園課と打ち合わせ

4/4,8/29

### 2 総会 (左記参照)

5/28

10時から山ノ内公会堂にて開催され、①昨年度事業報告、②今年度事業計画が承認されました。①のうち会計に関しての概要は、右の通り。

### 3 理事会

4/2,5/7/5/28,7/2,8/6,9/3

### 4 台峯を歩く会(山歩き)

4/16,

5/21(みどりショップの日), 6/18,7/16,8/20

### 5 山の手入れ

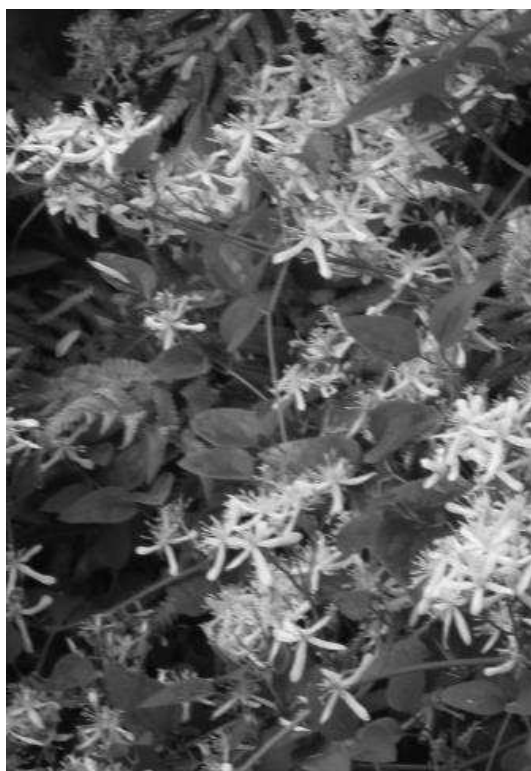
4/15,5/20,6/17,7/15,8/19

### 6 モニタリング

4/2,4/15,5/7,5/20,6/17,7/15,8/6,8/19,9/3

### 7 ホタル観察会

6/4,7/8



<センニンソウ>

科 目		金 額	摘 要
収 入	正会員会費収入	35,000	
	個人会員会費収入	182,500	
	団体会員会費収入	9,000	
	機関紙収入	0	
	カレンダー収入	266,400	
	民間助成金収入	25,800	
	寄付金収入	61,000	
	受取利息	35	預金利息
	その他	1,729	保険料戻し他
	収入計		581,464
支 出	(緑地保全・管理事業)		
	整備作業費	31,031	道具購入、研磨
	賃借料	12,000	道具小屋借地料
	損害保険料	2,275	
	事務用品費	5,184	
	小 計	50,490	
	(普及・研修事業費)		
	通信運搬費	37,294	会報他
	印刷製本費	235,000	カレンダー、会報他
	編集費	70,000	カレンダーデザイン
事務消耗品費	6,761		
賃借料	35,948	山歩き会場他	
損害保険料	2,275		
会議費	6,103		
雑費	1,732		
小 計	395,113		
(広報・出版事業費)			
通信運搬費	5,852	HP回線使用料	
しおり印刷	4,500		
広告宣伝費	50,000	鎌倉朝日	
小 計	60,352		
(交流・協力事業費)			
負担金	3,000		
渉外費	2,000		
小 計	5,000		
(管理費)			
通信運搬費	20,702	会費入金費用	
事務消耗品費	3,118		
賃借料	24,000	総会理事会会場	
会議費	12,754		
雑費	2,400		
小 計	62,974		
支出計		573,929	
経常収支差額		7,535	
緑地保全積立金繰入		61,000	寄付金相当額
当期収支差額		(53,465)	
保 有 資 産 計	現金	194,509	全て期末時点
	当座預金	3,155,612	
	普通預金	127,699	
	定期預金	288,522	
正味財産		3,766,342	

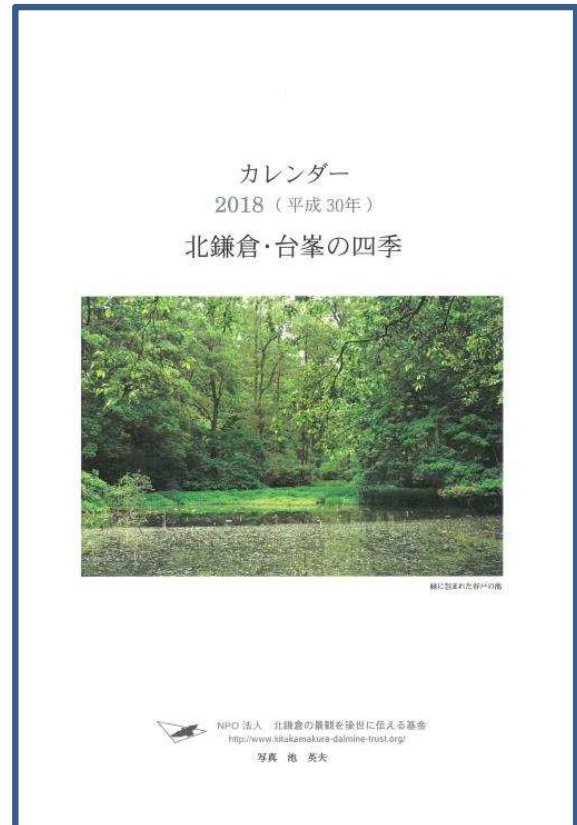
監事の林雄一郎先生より適正との監査報告書を頂戴しております。

## ＜台峯カレンダー＞

池 英夫さんの美しい写真によるカレンダー(右)を発行します。今回も鎌倉市から後援(鎌み第 522 号)を頂いています。

ご希望の方は、

- ①近く販売開始予定の市内書店等(島森、大里、たらば、あらいや)にて@1千円(税込)でご購入
- ②切手@1千2百円(税・送料込)×部数分を添えて事務局まで郵便でお申込み
- ③近くご請求しますが、来年度会費お支払い時に、@1千2百円(税・送料込)×部数分を加算して郵便為替でお申込みのいずれかにより、ご入手ください。



## ＜会員の集い ご案内＞(予告)

年に一度会員の皆さまに台峯の現状や今後についてご説明やご報告を行い、また皆様からご意見を伺う場です。

今年は 11 月 23 日(祭)13:30～山ノ内公会堂にて、の予定です。

詳しくは、追ってご案内申し上げます。

### 会報 36 号

発行日 2017 年 9 月 15 日  
発行者 特定非営利活動法人  
北鎌倉の景観を後世に伝える基金  
事務局 〒248-0011 鎌倉市扇が谷 3-2-12 本田方  
HP [www.kitakamakura-daimine-trust.org](http://www.kitakamakura-daimine-trust.org)  
写真 小谷一夫・久保廣晃・本田隆史

## 編集後記

秋の台峯にはいろんなキノコが顔を出すが、その判別は専門家でも難しいものらしい。

戦前のことだが、台峯からそう遠くない農家の裏庭に見たこともない、しかし美味そうなキノコが沢山出現。けれど古老に訊いても、本と首っ引きで調べても、果たして食べられるものか分らない。

そこで、思い切って市場(いちば)に並べてみたところ、買い手がついたので、安心して残りを家族で食べた由。

(戸塚区原宿町の幸い生き残った方から採集した話)